

平成 28 年 1 月 4 日

各 位

会社名 株式会社大和証券グループ本社  
代表者名 執行役社長 日比野 隆司  
(コード番号 8601 東証・名証 (第一部))

## 2016 年 日比野社長 新春ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年、2015 年は、証券・金融市場において、何年ぶりといった大きな出来事が相次いだ年でした。株式市場では、円安進行、企業業績の拡大期待を受けて、4 月には、今世紀初、2000 年以來となる 2 万円の大台回復、そして、6 月には 20,868 円という IT バブル超え、18 年ぶりの高値をつけました。夏以降は、中国経済の急減速懸念が世界同時株安を招き、日本株も大幅な調整を余儀なくされましたが、過度な悲観ムードが一巡すると、良好な中間決算や、TPP 交渉の進展などを好感し、一時 2 万円近辺までの回復を見ました。そのような中、11 月には、1987 年の NTT 以来の歴史的民営化案件である日本郵政グループの IPO が実施され、成功裏に上場を果たしました。そして、年末には 9 年半ぶりとなる米国利上げが遂に実行に移され、リーマンショック以来の超低金利政策への終止符と共に、波乱の 1 年が締めくくられました。

大和証券グループにとっての 2015 年は、新中期経営計画“Passion for the Best” 2017 をスタートさせた年でした。上半期連結決算は、経常利益が 985 億円、純利益は 691 億円となり、前年同期比で、経常増益を果たしました。ROE は、年換算で 11.1%、安定収益による固定費カバー率は、68%となり、新中期経営計画の目標である「ROE10%以上、固定費カバー率 75%以上」の達成に向け、順調なスタートを切ることができました。

これまで、当社グループは、純増重視の営業スタイル、ファンドラップへの注力、安定収益重視の経営、証銀連携ビジネスモデルなど、業界をリードするビジネススタイルを実践してきました。しかし、当然ながら、それらは時間の経過と共に差別化要因ではなくなっていくと思います。今後、当社グループの企業価値、競争力を高めていくためには、ビジネスモデルの一層の進化が必要です。その中核をなすのは、新時代の資産管理型ビジネスをいち早く確立、拡大させていくことだと考えています。

資産形成、資産運用や相続関連ビジネスは、確実に存在するお客様の大きなニーズに対応するものであり、そうしたニーズをしっかりと捉えていくことで、グループの収益基盤の拡大、更なる経営の安定化が図られます。当社グループが目指す姿は、様々なライフステージのお客様のライフプランを理解した上で、資産形成・資産管理をしっかりサポートし、ベスト・パートナーとなることです。

大和証券グループといたしましては、クオリティ No.1 のコンサルティングの提供を通じ、「お客様に最も選ばれる証券グループ」となると共に、証券・資本市場の発展を通じ、日本の成長戦略に貢献できるよう、グループを挙げて取り組んで参ります。

本年も大和証券グループをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以 上